

## 平成 30 年度 第 2 回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

### ◆開催日時

平成 30 年 8 月 29 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

### ◆開催場所

練馬区役所本庁舎 20 階 交流会場

### ◆出席者

#### 1 委員

秋元雄史委員長、青柳正規委員、高橋幸次委員、福井直昭委員、江村健二委員、  
島田紘一呂委員、関口登美雄委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員、  
今田裕子委員  
小金井靖（地域文化部長、副委員長）、近野建一（経済課長）、  
小沼寛幸（文化・生涯学習課長）、原田昭二（道路公園課長）、桑原修（光が丘図書館長）

#### 2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 山西、渡邊  
株式会社 丹青研究所

### ◆会議意見要約

議事 練馬区立美術館における再整備のコンセプト（たたき台）について

#### 【委員長】

- ・美術館のメインコンセプトと目指すべき方向性を議論したい。
- ・7,000 点という所蔵作品を公開できる展示室がないため、鑑賞いただく機会がない。常設展示室の確保は非常に大事。
- ・展覧会の規模や展示室が拡大すれば、バックヤードも人員も必要になる。

#### 【委員長】

- ・（展示室）が 1,000 m<sup>2</sup>というのが、一つの基準。

#### 【委員】

- ・常設スペースが他に設けられるとよい。常時あって、週単位か 2 週単位で作品が入れ替わるイメージ。増設は建ぺい率上、考えられないのか。

#### 【委員】

- ・「全部壊して新しいものを作らないのか？」「次はどうするのか」がみえてこない。

**【委員長】**

- ・現在の美術館を活かし、サンライフ練馬を含めて、それぞれの機能は抱え込みつつ広げていくことは可能性としては考えている。全部壊すことは難しいが、建物の中はいじれると思う。

**【副委員長】**

- ・当初の計画は老朽化のための改修であったが、経費がかかることがわかり、やるならば費用がかかっても、もっと良いものにするため、サンライフ側の敷地まで増築できないかということで検討がスタートした。コンセプトを検討するなかで夢を語っていただきながら建築へ落とし込んでいくことになると考えている。

**【委員】**

- ・車椅子やベビーカーは、地震でエレベーターが止まるなど非常時が不安。
- ・美術館の建物は、文化財として重要ではないのか。

**【委員】**

- ・サンライフ練馬を創作活動で利用しているが、スペースを削る方向なのか。

**【委員】**

- ・トレーニングルームや体育館は利用率が高く、機能をなくすことはなかなか難しく、賑わいのあるまちづくりの面でも、うまく融合できる形になればと考える。

**【委員】**

- ・車いすの動線が悪く、展示によっては観覧順序が逆になってしまうなどとても観づらい。いろいろな障害があり、バリアフリーや社会的弱者への対応の教育がなされているのか伺いたい。

**【委員長】**

- ・ハード面で直せるところと、それを補うのは人の行動なので、いろいろな形でサポートする体制をスタッフが作っていくことになる。
- ・7,000点からなるコレクションの活用が非常に重要と考えている。練馬の文化的資産をいかに見せて、次の世代に継承していくか。保存から公開へというプロセスも大事にしながら、他の美術館にない練馬の美術館の一つの特徴にしていきたい。

**【委員】**

- ・最初のうちは、コンセプトのA-1を始めて、あとから優先順位の高いB-1をやる、つぎにC-1、と成長させていく方法と、ABC並列でスタートさせるやり方もある。
- ・地域に貢献すること、市民が積極的に参加できる場、学校教育では足りないことを補完するようなもの、様々なものを構想しておくことが重要。

- ・区立美術館は、土地の特徴とそれをどうユニバーサルなアートに近づけていくか、そういう戦略は、意外に他の区立の美術館でやれていない。それをしっかりやるだけで特徴が出てくるし、注目されるものができるのではないか。

**【委員】**

- ・収蔵庫にも言えることだが、空調は費用もかかるし、美術館にとって一番大事。どれだけ経費がかかるかを考えないと失敗することもある。
- ・建物としての機能が図書館等とは違うので、そこを考えないと、予算も違うし、効率性だけではなく、同じ建物の中に入れることが難しいと思う。

**【委員】**

- ・練馬区の特徴、個性とも呼べるような、パッとイメージできるような美術館になるとよい。
- ・音楽は学校鑑賞会（中学校）があるが、生徒全員が美術館で鑑賞できるとよい。
- ・府中市の美術館では中学校入学時に「美術館の活用のしかたについて」という冊子を全員配布されていて、いつでも活用できるようになっている。

**【委員長】**

- ・教育委員会との調整が必要だが、学校との連携は広げていった方がよい。学年を決めてもよいが、小・中学校で鑑賞機会をつくれるとよい。

**【委員】**

- ・商店街としては（コンセプトの）Bの部分が一番関心のある部分であり、動線をどのように美術館と関連づけたものを作っていくかが気になるところである。

**【委員長】**

- ・中村橋がアートの的になるということは非常に重要。ぜひ一緒にやっていきたい。

**【委員】**

- ・（コンセプトは）全部が欲しいが、予算が必要。思い切って（経費を）かける時にはかけたほうがよいと思う。
- ・商店街に美術のまちらしく美術品を売る店や、画材店なども出てきて欲しい。

**【委員】**

- ・美術の森緑地と美術館の入口に花が咲き、レストランが開放され、地ビールやワインなどを置いて、和やかな良いムードでお客様を誘引していくようなプランが浮かぶ。堅苦しくなく、みんなの広場というイメージ。

以上